

自 平成 28 年 4 月 1 日
至 平成 29 年 3 月 31 日

I 事業の状況

平成 28 年度において実施した事業について報告します。

1. 大宅壮一文庫の維持運営及び拡充

(1) 寄付及び賛助会員に関して

当法人の事業を遂行するため、財団設立の目的及び事業に賛同する個人及び法人から寄付を受け入れている。本年度は 12 組の方から寄付をいただいた。

賛助会費の寄付は、法人会員が 87 件だった。個人会員は前年度より 51 人増え 194 人となった。この内 18 人が学生会員だった。

(2) 文庫の利用状況

1. 利用者について

開館日数は日曜、祝日、年末年始等の休館日を除いて、292 日となった。

雑誌記事索引ウェブ検索サービスは公立図書館、教育機関、賛助会員等に年中無休のサービスを提供している。

年間の利用者数は合計 84,617 人となり、前年比 2,931 人減少した。一日平均の利用者数は 290 人となった。

利用者数の内訳は、来館者が 13,509 人、ファクシミリサービス利用者が 19,011 人、複写資料配送サービスの利用者が 384 人となった。雑誌記事索引ウェブ検索サービス利用者数は 51,713 人となった。

2. 資料の利用状況について

雑誌の利用冊数は合計 516,063 冊となり、前年比 4,463 冊減少した。一日平均の利用冊数は 1,767 冊となった。資料複写枚数は合計 814,905 枚となり、前年比 10,937 枚増加した。一日平均の複写枚数は 2,791 枚となった。

2. 平成 28 年度事業実績

平成 28 年度事業計画に基づき、以下の事業を実施した。

(1) 資料の収集拡充

① 図書

新しい雑誌の発行に注意し、主要な創刊号を購入、所蔵をはかった。可能な限り多種類の雑誌のバックナンバーを備えるように随時出版元に寄贈依頼を行い、図書資料の拡充をはかった。

新刊雑誌は、出版元からの定期受贈の 667 誌に購入補充の 40 誌 698 冊を含めた 707 誌 7,886 冊と創刊号 19 冊を収集した。その他に個人寄贈の古雑誌 385 冊、購入補充の古雑誌 1 冊を加えた本年度の雑誌収集合計は 8,291 冊となった。

ノンフィクション関係等の書籍収集については個人寄贈 110 冊、法人寄贈 590 冊、合計 700 冊を受贈した。購入書籍 3 冊を加えた書籍収集合計は 703 冊となった。本年度の図書資料の収集総計は、8,994 冊となった。

(2) 雑誌記事索引データベースサービスの整備

① 雑誌記事索引

収集雑誌の内利用頻度を考慮し一般週刊誌、女性週刊誌、総合月刊誌、男性誌、女性誌、経済誌など 260 誌 3,514 冊について人名件名別の詳細な記事索引を作成した。本年度は記事索引 112,224 件（分類件数 140,256 件）を作成し、人名索引に 57,388 件、件名索引に 82,868 件分類して雑誌記事索引データベースに登録した。

また、雑誌記事索引ウェブ検索サービスでは、明治時代から本年度末まで 130 余年間について、人名索引 149,490 項目、件名索引 6,749 項目（小項目数）に分類された

記事索引 5,268,483 件（分類件数 6,425,071 件）の検索が可能となった。

② 記事索引閲覧サービス

来館者が、明治時代から最新までの雑誌記事索引を検索端末で自由に検索できる現体制を維持し、専任の係員による代行検索やレファレンスを行って、資料調査の利便性をはかることに努めた。代行検索プリントサービスでは、必要とされる該当記事リストの無料プリントを行い、プリント持ち帰り希望者には有料で頒布した。

③ 記事検索資料ファクシミリ送信サービス

会員を対象に、雑誌記事索引データベースを検索し、必要な記事リストをプリントしてファクシミリで送信する有料検索サービスを行った。

④ 教育機関対象雑誌記事索引ウェブ検索サービス（WEB教育機関版）

教育機関限定の雑誌記事索引ウェブ検索サービスは、海外も含めて現在 132 機関に導入されている。学生や研究者が学位論文等作成などに活用している。

⑤ 賛助会員対象雑誌記事索引ウェブ検索サービス（WEB会員版）

賛助会員を対象にした雑誌記事索引ウェブ検索サービスは、法人会員の利用部署数が 53 部署、個人会員の利用登録者数は 72 人となった。

⑥ 公立図書館対象雑誌記事索引ウェブ検索サービス（WEB公立図書館版）

公立図書館を対象にした雑誌記事索引ウェブ検索サービスは、県立図書館、市立図書館等、全国 23 の公立図書館で導入されている。図書館のレファレンス業務等、広く一般に活用されている。

※④WEB教育機関版、⑤WEB会員版、⑥WEB公立図書館版の著作権は大宅壮一文庫に帰属し、運営も当法人で行っている。

(3) 雑誌記事複写サービス

① 来館複写サービス

来館者の要請により所蔵雑誌の記事複写サービスを著作権法の範囲内で行った。

② 記事複写資料配送サービス

来館できない遠隔地からの利用者の要請にもとづき、必要記事を著作権法の範囲内で複写し、代引き宅配便による配送サービスを行った。

③ 記事複写資料ファクシミリ送信サービス

会員を対象に雑誌記事索引で検索した雑誌記事を複写し、ファクシミリで送信するサービスを行い、所定の複写権使用料を複写権管理団体に納付した。

〔複写権使用料〕

記事複写のファクシミリ利用については、公益社団法人日本複製権センターとの利用許諾契約にもとづき、27 年度分複写権使用料として税抜 1,213,605 円を納付した。

(4) 埼玉越生分館の事業

平成 28 年度は月 1 日開館した。有料入館者はなかった。

① 来館者に大宅壮一関連資料を展示、公開した。

② 来館者へ所蔵書籍データベースの提供、閲覧サービスをはかったが、利用はなかった。

③ 主要雑誌の予備用のバックナンバー保存については、経費節減のため一部の雑誌収集を中止している。

(5) 出版物の刊行

「大宅文庫ニュース」の刊行

平成 28 年度は、機関紙「大宅文庫ニュース」の刊行はなかった。

(6) ホームページでの広報活動

ホームページでは、当文庫の「利用案内」のほか、「雑誌記事索引」の紹介ページを毎週更新している。広く一般に向けて、所蔵資料や記事索引を知ってもらうよう積極的に広報活動を実施した。